

## 徳之島におけるハクセキレイの集団ねぐらの観察事例

青柳 克<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 〒901-2114 沖縄県浦添市

### はじめに

全国に分布するハクセキレイ *Motacilla alba* [スズメ目 Passeriformes セキレイ科 Motacillidae] は、各地において集団でねぐらを形成することが知られている (例えば, 黒田, 1960; 湯浅, 1960; 熊谷他, 1983; 唐沢, 1996 など). しかし, 南西諸島における本種の集団ねぐらの情報は少なく, これまでに学術論文として沖縄本島から 1 例, インターネット上のブログ記事として徳之島から 2 例があるのみと思われる (青柳, 2023; 平城, 2024; 高, 2015). このうち, 徳之島では〈約 300 羽〉, 〈約 50 羽〉の規模の集団ねぐらが紹介されている (平城, 2024; 高, 2015). 近年, 著者もこれらのブログ記事と同様に, 徳之島でハクセキレイの集団ねぐらを観察した. その集団は 500 羽を超える大群であったため, 南西諸島における本種の大規模な集団ねぐらの事例として報告する.

また, この集団ねぐらが 2013 年からほぼ毎冬に同所で形成されていた情報も得たため, 10 年以上にわたり同じ場所に形成された集団ねぐらの実例としても報告する.

### 観察記録および計数結果

2022 年 11 月 30 日 23 時頃, 小雨がぱらつく中, 徳之島町亀津中区の主要道路沿いに建つホテルに隣接した電線 (座標: 27°43'51.0"N 129°01'14.3"E) に, 夥しい数の小鳥が止まっていた (図 1). 電線の周りはホテルの看板やロビー, 信号機などにより明るかったため, 照明機器を使わなくとも肉眼で小鳥の群れを認識できる状況であった. 双眼鏡で種を確認するとハクセキレイ *M. alba* の集団

ねぐらであった (図 2). ほとんどの個体は頭部を体にうずめた姿勢であったが, 頭を上げた 6, 7 羽には黒い過眼線と白い喉が見られ, 亜種ハクセキレイ *M. a. lugens* の特徴 (水谷・叶内, 2017) を確認できた.

現場でハクセキレイの正確な羽数を把握することは困難であったため, 集団ねぐらの状況をデジタルカメラで撮影し, 後日, パソコン画像上で詳細にカウントした. その結果, 電線上に 526 羽, 電柱に 6 羽, 電線下の街路樹であるビロウ内に 14 羽の計 546 羽から成る集団ねぐらであった.

また, その 2 年後の 2024 年 11 月 5 日の夜間にも, 同じ電線で本種の集団ねぐらを観察したが, その羽数は 150 羽ほどと小規模であった.

### 目撃情報

ほぼ毎冬, 徳之島亀津中区にある前出のホテルを利用している知人から, ハクセキレイの集団ねぐらの目撃情報を得た. 彼は, 前述の電線上に形成された集団ねぐらを 7 か年にわたって目撃し, その様子を写真に撮影していた. 目撃した日付は〈2013 年 1 月 5 日〉, 〈2014 年 12 月 25 日〉, 〈2016 年 12 月 17 日〉, 〈2018 年 1 月 14 日〉, 〈2019 年 1 月 2 日〉, 〈2020 年 1 月 11 日〉及び〈2023 年 1 月 13 日〉であった. ただし, 集団ねぐらの羽数は計数していないとのことであった.

### 考察

徳之島でハクセキレイの集団ねぐらが形成された場所について, 高 (2015) と平城 (2024) のブログ記事ではどちらも〈街中の電線〉で観察さ

Aoyagi, M. 2024. Observing of the roosting of a group of white wagtails *Motacilla alba* on Tokunoshima Island, Ryukyus, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 185–187.

✉ MA: Urasoe, Okinawa Prefecture 901–2114, Japan (e-mail: s\_4esnovnitsa@hotmail.com).

Received: 4 December 2024; published online: 7 December 2024; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_051/051-039.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-039.pdf)

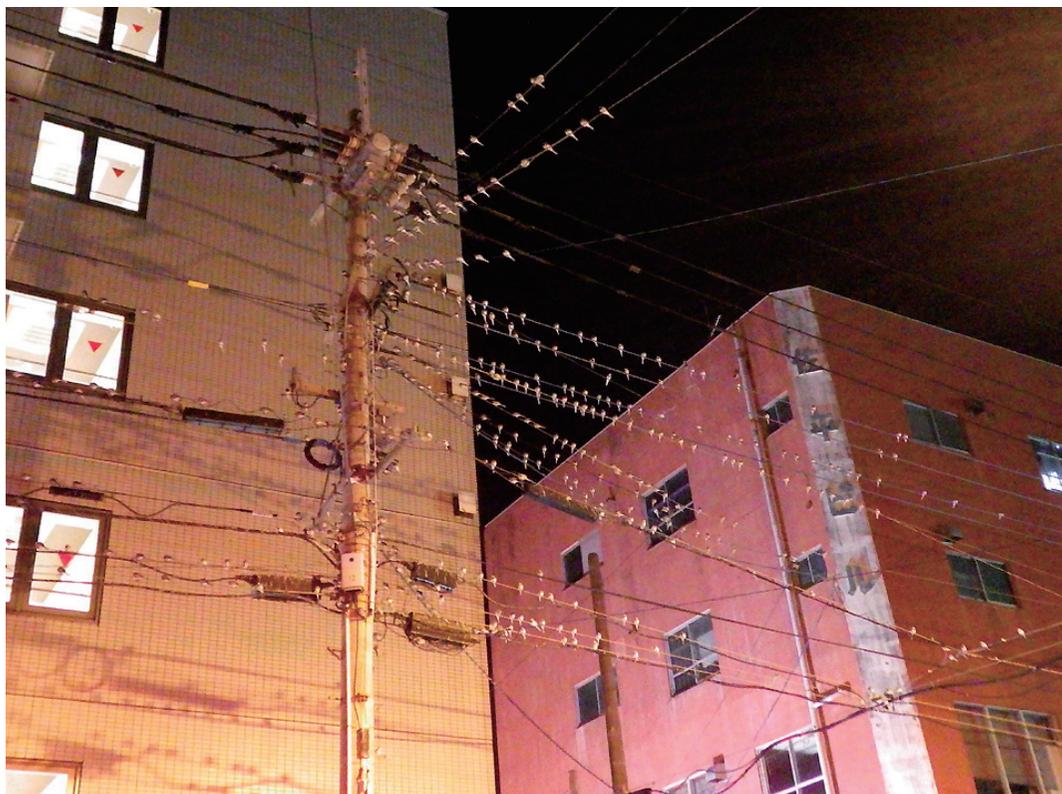


図1. 徳之島亀津中区の街中に形成された集団ねぐら。

れた事例が記されていた。両ブログの掲載写真を詳細に調べた結果、本稿で報告した〈亀津中区のホテルに隣接した電線〉と同じ場所であった。

次に、その集団ねぐらが形成されたシーズンについて整理する。ハクセキレイは徳之島には秋季の10月頃に渡来し、翌春の5月頃に渡去する渡り鳥である（奄美野鳥の会，2009）。このことから、ある年の秋から翌年の春までを1シーズンとして計上すると、本稿での集団ねぐらの確認は〈2012-13年〉、〈2014-15年〉、〈2016-17年〉、〈2017-18年〉、〈2018-19年〉、〈2019-20年〉、〈2022-23年〉及び〈2024-25年〉の8シーズンであった。同様に、ブログ記事の高（2015）では〈2015-16年〉の1シーズンのみ、平城（2024）では〈2022-23年〉及び〈2023-24年〉の2シーズンの情報を掲載していた。これらを整理すると、本種の集団ねぐらは〈2012-13年〉から〈2024-25年〉にかけて、計10シーズンにわたって観察されていた。

さらに、これらの集団ねぐらの観察月に着目

すると、本稿では〈11月〉、〈12月〉及び〈1月〉の3か月で確認しており、ブログ記事では〈10月〉、〈1月〉及び〈3月〉の3か月について掲載されていた（平城，2024；高，2015）。

以上の事柄をまとめると、徳之島亀津中区の市街地において、本種の集団ねぐらは2012年から2024年までのほぼ毎年、まったく同じ場所の電線上で、各シーズンの10月から翌年3月の6か月間にわたって形成されていたのであろうと推測される。

これまでに国内で報告されている市街地に形成されたハクセキレイの集団ねぐらは、約1,200羽（千葉県柏駅）、560羽（東京都吉祥寺駅）、約550羽（同八王子駅）、335羽（同町田市）、200-600羽（大阪府堺市榎・美木多駅）、200-300羽（埼玉県川口駅）、196羽前後（神奈川県横須賀市）、130羽前後（同横浜駅）、125羽（沖縄県浦添市）、120羽（大阪府柏原市河内国分駅）、30羽以上（東京都高尾駅）、20-30羽（埼玉県鳩ヶ谷駅）など、



図2. 電線上で休息するハクセキレイ *Motacilla alba* の群れ。

その規模はさまざまであった(青柳, 2023; 藤波, 2016; 八王子・日野カワセミ会, 2009; 井口, 2014; 唐沢, 1996; 日本野鳥の会, 1992)。それらと比較すると、本稿の546羽の集団ねぐらは規模の大きなものであったと言える。

### 謝辞

貴重な目撃情報と現地写真を提供していただいた北野忠氏(東海大学)に御礼申し上げます。

### 参考文献

- 奄美野鳥の会(編), 2009. 奄美の野鳥図鑑, 文一総合出版。  
 青柳 克, 2023. 沖縄島におけるハクセキレイ *Motacilla alba* の集団ねぐらの記録. 沖縄生物学会誌, 61: 59-63.  
 藤波不二雄, 2016. 鳩ヶ谷の生物 十六 都市鳥になったハクセキレイ. <http://fj.enokorogusa.com/BiotaHatogaya/BiotaHatogaya16.htm> (2022年12月13日アクセス)

- 八王子・日野カワセミ会, 2009. セキレイ類の集団時(2008年1月~12月). かわせみ, 42: 64.  
 平城達哉, 2024. ハクセキレイのねぐら(徳之島). 奄美大島いきもの通信. 2024年10月2日閲覧. <https://amami-wildlife.jp/2024/01/15/hakusekirei-tokunoshima/>  
 井口豊重, 2014. イルミネーションを気にせず眠る吉祥寺駅のハクセキレイ. 自然のたより, 12(565): 1.  
 唐沢孝一, 1996. 都市鳥から見た街路樹の役割. 国際交通安全学会誌, 20: 40-48.  
 熊谷 潤・犬山聡彦・白井勝文・斎藤 篤・浜口哲一・三島敦子・八城敬友, 1983. 神奈川県におけるハクセキレイの集団ねぐらについて. Strix, 2: 33-40.  
 水谷高英・叶内拓哉, 2017. フィールド図鑑 日本の野鳥, 文一総合出版。  
 日本野鳥の会大阪支部, 1992. 都市鳥調査報告書, 大阪府。  
 高, 2015. 街の中の集団ねぐら ハクセキレイ. 奄美自然観察記ブログ. 2023年3月12日閲覧. <https://blog.goo.ne.jp/inpre-anac/e/2365c36e6b5e102a4cf2ed1b58d15b19>  
 黒田長久, 1960. ハクセキレイの集団性. 鳥, 15(75): 235-236.  
 湯浅純孝, 1960. ハクセキレイの集団性と集団就眠に就いて. 鳥, 15(76): 290-291.